



Washington Japanese Language School

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



2021年5月29日 発行 第9号

ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411

5月22日午前の実況中継録画（文字版）です

<小2国語>「先生とスイミーちゃんに見せてください。ちゃんとやってるね。やるねー、みんな」「はい、書いてください、どうぞ。」「え、鉛筆持っていない人がいるよ?」「スイミーちゃん、チェック!」「あ、今回はみんなできてるよ。今回は1回でできてるよ。」「次は③の番号を書いてください。何も言わなくても黙々とやっています。」「言っていないのに、スクリーンに見せています。じゃあ、みなさん、1ページめくってください。その上に④を書いてください。」「皆さん、指示がちゃんとわかってらっしゃる。」「すいすいスイミー、スイミーちゃんチェック!全員合格!」「最後の場面です。⑤の場面、書くところまちがえないですよ。皆さんよくできている。スイミーちゃん踊ります」「さて、①から見ていきます。①は教科書の何ページですか。」「64, 65ページ。」「はい、正解。じゃあ、皆さん開けてください。一人の人に読んでもらいます。上手にできるよ。間違っても大丈夫。」「<(^)o(^)>ははっきりと、大きな、気持ちのこもった声で堂々と読めました!。

<小1国語>難しいのを上手に書けています。<(^)o(^)>褒められて画面の向こうでニコの顔が見えました。「みんな上手に書けてるね。上手、上手。」「『と』です。上手に書けています。お母さんに花〇してもらってね。では、今日のひらがなです。ノートと鉛筆を準備してください。」「先生のノートを画面に写し、「鉛筆をこう置いて、親指と人差し指で持って、こう倒します。2本で持っているけど、3つ目の指をこう立てます。鉛筆を持つときはこの3本で持ちます。使っていない反対の手は、ノートを押さえます。」「今日いい物を持ってきました。これ、何かわかる?」子どもたちは、先生の持ち物に集中。「みんなラーメンって言えますか。これを上手に書きたいなと思います。見てて、これでいい?」「だめ!」体を左右に振って、首を振ってNOの表情。「どこがだめかわかる?」「伸ばすのが足りない!」「どこが伸びてるの?どの音が伸びてるの?」「ラ」はこの字一つじゃ伸びないね。そこで、お母さんが助けに来てくれるんですよ、ひらがなのお母さんはだれ?」「あいうえお!」

<小3国語>「段落ごと、一つずつ分かれていて、そういうのが中心となる文です。もう一度終わりの部分を見たいと思います。これは『どんなこまがあるでしょう』の問いの答えになっています。『どんな楽しみ方があるでしょう』のところで、どこが答えになっていますか。ちょっと大変だったと思いますが、よくできたと思います。」「色は色ごま、音はなりごま、さかだちごま。」「素晴らしい、いいところに気が付きました。」「先生は手にOKマークのサインボードを持っています。」「さてさて、いろいろなこまを勉強してきました。みんなが一番遊んでみたいこまは何か。理由も言ってね。」「さかだちごま」「『～だからです。』を最後につけると理由になります。」「ぼくは～です。なぜかと言うと、元の色と違う色になって回って、そこを楽しむところが好きだからです」「私は〇〇で遊んでみたいです。雪の上で…です。」「私はきょくごまで遊んでみたいです。なぜかと言うと～。それに、～見てみたいからです。」「私は～です。なぜかと言うと、うまく回せたらとてもうれしく思うからです。」「ぼくは全部やりたいけど、特になりごまと逆立ちこまをやりたいです。本当に逆立ちするのか実験してみたいです」<(^)o(^)>理由も加えた発言の仕方がみんなすぐにできちゃいました。すごい。

<中1数学>ちょうど、答え合わせをしていました。問題は「 $\frac{3}{2}X+Y$ $X=2$ 、 $Y=6$ のとき」「答えあった人？間違っている、あ、そうだって思えるのが大事だよ。」「じゃあ、得意じゃないかもしれない文章題いこうか。3人の班がX班、5人の班がY班ある時、全体の人数を表す式を書きなさい。また、 $X=7$ 、 $Y=4$ のとき、全体の人数は何人になりますか」「実は先生も文章題は苦手だった、漢字が苦手だったから。だから大事なところに線を引く。線を引いておくと式が浮かんでくるね。「 $=$ 」の位置はそろえるんだよ。ほら、みんなが共通の画面に参加できるからね。<(^)o(^)>一人一人の色を変えれば、みんなに参加できるのかな？

<小6国語>ブレイクアウトルームでの学習の後におじゃましました。昼休みは長い方がいいか、短い方がいいかの2つの班に分かれ、その意見を発表していました。長い方がいい班の発表でした。「昼休みは長い方がいいです。休んだ後、次のクラスの授業に集中できます。友達とたくさん遊べます。ゆっくりご飯を食べることができます。このような理由から昼休みの間いろいろなことができます。だから昼休みは長い方がいいと思います」<(^)o(^)>ブレイクアウトルームでの友達同士での話合いに慣れてきたのかなと感じました。時間が足りなくなって早口言葉ができなくなったようです。「ガス、ガス爆発？」授業の終わりに先生がみんなに一言。「算数、言ってらっしゃい！」

<幼稚部>では音読からやっていきます。『あ』あおい あじさい あめのなか 『い』いいこと いっぱい いちねんせい 『う』うきわで うみに うかんでる 『え』えがおの えきちょう えをかいだ 『お』おうさま おおきな おくりもの。以上が今までの復習。今日は『かきくけこ』。『か』かえるのこ かけっこ かわいいね。「かけっこの小さな『っ』はジャンプするよ。山から水が流れてくるもの何だ？そう、川」「雨の日にさすものなんだ、そう、かさ」「ドリル開いてドリルに書いてみましょう。『か』のところだよ。<(^)o(^)>色画用紙で作った手作りの□（枠）を使って、やる場所がわかりやすいように示してくれていました。

<小3算数>「0から9までの10枚のカードから8枚選んで、4桁の数を2つ作りましょう。この2つの数で足し算と引き算をしましょう」「どういう組み合わせの数字を作ったかな」「5 6 7 8 - 2 3 1 0」「 $8-0=8$ 、 $7-1=6$ 、 $6-3=3$ 、 $5-2=3$ 。繰り下がりのない引き算になりました。」「2 4 8 3 + 7 1 5 6 と 7 1 5 6 - 2 4 8 3」「まず、ノートに足し算をやってみてください。」できたノートを見せる子には「はい、OKです。できた人は引き算をやってみてください」「まず、<(^)o(^)>話の順番を示す言葉が自然に出てきています！。 $3+8=11$ 、1繰り上がって $1+8+5=14$ 、1繰り上がって $1+1+4=6$ 」先生は、すかさず、「いい工夫をしました。 $1+4+1$ を $1+1+4$ と自分がやりやすいようにしています。」と何気ないけど大事な一言。「9 6 3 9になります。」「引き算を誰かに説明してもらいます」「最初に<(^)o(^)>続けて出ました。話の順番を示す言葉！。 $6-3=3$ 、 $5-8$ はできないから $15-8=7$ 、 $0-4$ はできないから7から1とって $10-4=6$ 、 $6-2=4$ 。答えは4 6 7 3」「ここまでできた？大丈夫？〇〇君、力強くうなずいてくれました！」

<小5国語>おじゃましましたが、みんなブレイクアウトルームで話合いの最中。「また来ます。」と言ってから、かなり時間がたってから再度のおじゃま。もう授業の最後でした。文語、口語についてその定義をまとめた後、「最後のまとめにいくよ。⑪⑫は作者の考え、意見をまとめているところです。さて今週の課題をもう一度見ていくよ。事例は②③④と⑤⑥⑦と⑧⑨⑩。まとめが⑪⑫。要旨を150字以内にまとめよう。<(^)o(^)>5年生では、説明文教材がいくつかありますが、この単元がその基礎となるから、丁寧に扱ってくれていることがわかりました。

<小4算数>「先生と同じようにみんなも元気ですね」と言っておじやますと、「先生と同じ人が17人もいたらすごいことになるね。」と。「学習課題です。『分度器を使って角度をはかれるようになろう』書きましたね。今日は、授業が終わった時に、角度がはかれるようになったよとなるように頑張ります。」「まず、一つ目の活動、ドリル24を開いてください。2分でやってみましょう。ではよいスタート。」「〇〇さん、終わった？すごい、できてる。」「終わったけど、下の問題をやり中です。」「赤ペンを用意してください。うれしいね、わかってる手がいっぱいあるね。では教科書に戻って、59ページをやっていきます。まず、ブレイクアウトルームで、分度器を見て気が付いたことをどんどん発表してください。一人1回は……。学習リーダーさん進めてください。いってらっしゃい。」ブレイクアウトルームに入れていただきました。確かに一人1回は発言していたと思います。「90が書いてある」「真ん中に90ばかりです。」「一番大きいのは180です。」「一番中心の線で切ったら直角になります。」「1目盛りは何の単位かわかります。」「直角は90°」「半分に切ると90°」「まだ時間があるからもう少し言ってみよう。」「なんか半分かいっぱいある」ここで終了。「じゃあ、見つけたことを教えてください。」「真ん中に90°が書いてある。」「聞く姿勢もいいね。」「半分に切るとちょうど直角が2つになる」「それ、グループの誰が発表してくれたの？いいブレイクタイムでした。」「直角を90に等分した1こ分の角度の大きさを1度といい、1°と書きます。」

<中2数学>「いろいろなやり方があります。今やっただけで、4つあります。符号を間違えない、どうやってやったか見せてください。」「次に割合の問題です。やさしそうで、ちょっとわからない人がいるかもしれないので復習。『割合とは、比べる量がもとにする量のどれだけに当たるかを示したもの』」「①100円の5%、②2500円の10%、③100円の10%引き、④2500円の20%引き。20%は500円、ということで実際に払うのは2000円。」「割合の問題です。『ある中学校の2年生の生徒数は男女合わせて165人です。そのうち、男子の50%、女子の60%はボランティアに参加したことがあります、その人数は91人です。この中学校の2年生の男子、女子の生徒数をそれぞれ求めなさい。』」「1回で頭に入っていないでしょ。だから2回目に読むときは、線を引いて情報の整理をすることです。自分がわかりやすいように印をすることが大切です。」<(^)o(^)>解き方のテクニックを教えてくださいました。私もそうやって教えてもらっていれば……。

<(^)o(^)> 「全国学力テスト」と「全国学力・学習状況調査」

「全国学力テスト」と「全国学力・学習状況調査」は同じものです。しかし、新聞やテレビでは「全国学力テスト」と呼ばれていることの方が多いかもしれません。実際に雑誌にも、「新型コロナウイルスの影響によって中止となった『全国学力テスト』。正式には『全国学力・学習状況調査』」とあります。

この「全国学力・学習状況調査」は、2007年度（平成19年度）から始まりました。小学6年生と中学3年生を対象に国語と算数・数学を毎年、それ以降2012年度から理科、2019年度から英語を3年に1度実施されています。目的は、「子どもたちの学力状況の把握」と「教育施策、教育指導の成果と課題を検証し、改善に役立てる」の2つだと思います。前者の目的だけを取り上げると「全国学力テスト」となってしまうのではないのでしょうか。

さて、「都道府県別平均正答率」とでいつも上位にいるのが秋田県です。当然、その秘密をさぐりたくなります。教育委員会、学校関係者が秋田県に目を向けました。多くの方が秋田県に足を運びました。秋田県の教育に関する本も出版されました。私も知り合いの秋田県の校長先生に尋ねると、「別に特別なことはしていないよ。」でした。

⇒<(^)o(^)>「第10号 はなみずき」に続く